

## 保育計画成果報告書

法人名	株式会社アイグラン
施設名	あい保育園みずほ
報告者（役職）	富田こずえ（園長）
住所・連絡先	静岡県静岡市駿河区みずほ4丁目10番1号
	☎ 054 - 266 - 9466
	E-mail Ai-mizuho@aigran.co.jp

### ○タイトル（保育計画）

『母なる大地で、子ども達が心身共に健やかに育つ為には・・・』

### ○主な助成備品

樹木（ケヤキ、ハナモクレン、ハナミズキ、クルメツツジ、サツキ、その他）  
藤棚一式、花壇一式

## 1. 保育計画策定の目的

\*社名でもある『アイグラン＝母なる大地』にしっかりと根差した保育を提供したいと思っています。又、保育目標でもある『自然との触れ合いを大切にしたい』という願いを叶えるにあたって、私たちの保育園は、駅前という立地条件の為、園庭も狭く日々の日常で自然に触れる機会が少ない為、樹木を植え、藤棚を作り、環境を整備する事で、毎日の生活の中で身近な自然に触れたり、目に映り、記憶に残る光景としての自然を大切にしたいと考えました。

## 2. 具体的な実施内容

\*毎日、大人を中心に樹木の世話を行いました。

水やり、落ちた葉の掃除、樹木の名前を覚え、職員自身が人的環境として、子ども達が興味を持てるように心がけました。

\*日常の保育の中で、子どもの様子を観察し、記録に残していきました。

子どもの発想を大切にし、子どもの姿から、どうやったらもっと楽しめるかを考え遊びを発展させました。

\*製作物に利用し、飾りました。

作品展で飾る事で、子ども達の頑張った姿を保護者とも、共有しました。

又、道具の扱い方を知ること、『もっと貼りたい』『もっとやりたい』という声が聞かれました。

\*樹木に集まってきた小動物に興味を持ちました。

夏にケヤキに集まったセミの声に耳を傾けたり、触れたり、時には、一斉に飛び立つ姿を見て驚きのあまり、泣く子もいました。

土の上を歩いていたアリのじっと観察したり、つまもうとして、何度もトライする姿をそっと見守りました。

幼児クラスでは、図鑑を真ん中に頭を寄せ合い、調べる姿も見られました。

\*ごっこあそびや、科学の目として自然と関わる事が出来ました。

ビニール袋の中に花びらと水を入れ、色の変化に興味をもちました。

型抜きをしたケーキの上に葉っぱを刺して、『いらっしゃいませ』と友だちとのコミュニケーションを深めたり、やりとりを真似る姿が見られました。

### 3. その成果と評価

#### ◎保育士の質の向上

○毎日樹木に水をあげたり、落ちていた葉っぱを集め掃除する中で、環境の大切さを知る事が出来たようです。幼児クラスでは、当番活動として子どもと一緒にやったり、乳児クラスでも保育士の姿を見て、真似をしたい！一緒にやりたい！という気持ちが育った子もいます。



○何の興味も持たなかった職員の中には、藤の花がなかなか成長しないことを気にかけて調べてくれたり、園庭で子どもと遊んでいる時に、草むしりをする保育士の姿がありました。

○子ども達が木や葉っぱを利用して遊んでいる姿に気づき、そっと見守る姿は、母なる大地そのものでしたし、こうしたらもっと面白くなるというワクワクドキドキ感へつなげる工夫をしてくれました。



### ◎子ども達の育ち

○製作物を作る工程において、のりやセロテープの使用方法を覚えたり、表現する事の楽しさを十分に味わえたと思います。作った作品を自慢げに保護者に『これ、私が作ったの』と伝えてる姿は、とても微笑ましかったです。



○花の名前を図鑑で調べ、友だちとコミュニケーションを持ち、友だちがセミを持てることに刺激され、持とうとして持てずにへこんだり、お迎えの際、友だちとケヤキを見上げたその拍子に、ワーっと一斉に飛び立ったセミにビックリ、セミ以上の泣き声が響き渡りました。プール遊びの時には、臭いに誘われハチも飛んできて、何度もプール遊びを中止にしました。子ども達からは、『もっとプールで遊びたかった』という声もありましたが、時には理にかなわない事がある事も学べたと思います。

○乳児クラスでは、普段なら見落として踏んづけてしまいがちな、小さなアリを覗き込み、親指と人差し指でつまもうとして、つまめず、何度も何度もやっている姿には、『根気』を感じましたし、その姿に気づき、そっと見つめる保育の質の高さも我が園の財産だと改めて思います。



○『いらっしゃいませ』『はいどうぞ』とお店屋さんになりきってのごっこ遊びを通して、友だちとのやりとりの楽しさや再現あそびの楽しさを学べたと思います。

『この花とこの花を混ぜたらこんな色になったよ』『あれ、色が出ないな』『葉っぱだと緑色になるね』とよく、4歳5歳の子ども達が園長室に報告に来てくれました。その時の笑顔は、目が輝いていて、報告を聞いている大人が幸せな気持ちになりました。



○まだ植樹して間もないので、そんなに大きくなっていないケヤキですが、それでも少しは、日陰になり、夏の暑い時には、狭い日陰を求める子どもの姿も見受けられました。寄り添うようにたたずんでいる姿は、子どもなりにもちゃんと考えていることがわかりましたし、こどもってすごいなあ～と思えた瞬間です。

#### 4. 今後の課題と展望

◎身近に自然がある環境で、子ども達は様々な事を考え、自ら手を伸ばし触れたり、行動に移し、遊びを通して、心身の成長にもつながったと思います。

私たち大人には考えもつかない遊びを生み出し、時には一人でじっくりと、時にはお友だちとの関わりの中で、自然を遊びに取り込んできました。

これからも、子どもの発想を大切にその時その時の子どもの姿を見守りながら、自然と保育を一体化していけたらと思います。

又、その子なりの思いであったり、夢中になって遊んでいる姿にいち早く気づき見守ったり、時には、さりげなく言葉を掛けたり手助けできる職員集団であり続けたいと願います。

保育士の研修の一環としての記録の中には、声を掛けた事で、遊びが終わってしまい、見守る事の大切さに気付いた保育士もいましたが、子どもの姿を出発点として、自らの関わりを振り返ったり反省する事が、きっと保育の質として、自分の成長にもつながると信じています。

これからも『あい保育園みずほって楽しい!』ワクワクドキドキする活動がたくさんあって、毎日を『笑顔で登園!笑顔で降園』を追求していきたいと思います。

成果の多い一年をプレゼントしてくれた関係者の皆様、自然との関わりを通して子ども達の姿を見守りあそびを発展させてくれた仲間、そして何より目を輝かせて夢中になって遊びこんできた子ども達に感謝したいと思います。ありがとうございました。

以上